

本県農林水産業を取り巻く情勢

① 世界的な食料不安の顕在化

- ・ 世界人口の増加に伴う食料需要の増大
- ・ 異常気象による災害の頻発、病害虫・疾病の発生
- ・ コロナ禍により食料安全保障の再認識

② 脱炭素化・環境負荷軽減に向かう世界的な流れ

○ 国の「みどりの食料システム戦略」(R3年5月)の取組方向

- ・ 有機農業の拡大 (2018年:2.4万ha → 2050年:100万ha)
- ・ 資材やエネルギー調達における脱炭素化
- ・ 森林のCO2吸収の最大化 (2050年:苗木の9割以上にエリートツリー等を活用)

③ 農業就業人口・労働力不足の深刻化(すう勢)

- ・ 10年後には半分以上 → 経営面積を2倍にする必要

④ 人口減少の根本課題である“賃金アップ”

- ・ 農業分野においては収益力の向上 = 「経営力の強化」

取組の視点

視点① 人口減少下でも持続できる体制の確立

- スマート技術による規模拡大の限界突破
- 農地の集約化の促進 ○ 新規就農者の確保・育成

視点② マーケットに対応した複合型生産構造の確立

- 「サキホコレ」を旗艦とした秋田米の需要量維持(シェア拡大)
- 農地集積や園芸振興と一体的に進めるあきた型ほ場整備の推進
- メガ・畜産団地の横展開と中山間地域の連携産地形成
- 単収・品質アップによる生産・販売の拡大 ○ 雪害に強い果樹産地づくり

視点③ 経営力の強化による「稼げる農業」の実現

- 安定雇用場となる経営体の育成(1億円プレイヤー)
- リスクヘッジとなる販路の多角化や付加価値を高める6次産業化
- 農家手取りに直結するブランド化(秋田牛、一徹豆、台湾での紅あかり等)

視点④ 「みどりの食料システム戦略」に対応した取組

- 有機農業の拡大(国と連携した防除・除草等の技術開発)

Ⅰ 農業分野の方向性と主な取組

方向性(1) 担い手の経営力の強化と新規就業者の確保・育成

①法人化や農地の集約化などによる担い手の経営基盤強化

- ・ 法人の経営継承、組織の連携・統合
- ・ 農地中間管理事業を活用した農地の集約化 など

②地域の雇用と活力を創出する企業的経営体の育成

- ・ 能力の高い経営者の育成 など

③早期経営安定に向けた新規就農支援

- ・ 早期経営安定に向けた支援体制の整備
- ・ 新規就農者の農地確保を支援する取組 など

④多様なニーズに応える移住就農の支援

- ・ 相談会やインターンシップによる本県農業の魅力発信 など

⑤女性起業活動の経営発展

- ・ 積極的に誘客する直売所の運営スタイル構築 など

⑥地域農業を支える農業団体の経営基盤強化

方向性(2) 持続可能で効率的な生産体制の確立

①スマート農業の普及による生産性の向上

- ・ ロボット農機や自動灌水施肥装置による効率的な農業 など

②農業労働力の安定確保と労務管理の効率化

- ・ 経営体の雇用管理能力の向上
- ・ 無料職業紹介所の全県展開 など

③持続性が高い環境保全型農業等の普及拡大

- ・ 有機農業、減農薬・減化学肥料栽培の拡大 など

④次世代農業技術等の研究・開発の推進

- ・ リモートセンシングを活用した生産性の向上
- ・ 環境負荷に配慮した生産技術の確立 など

⑤産地づくりやスマート農業を支える基盤整備の推進

- ・ 水田の大区画化、畑地化の推進 など

⑥農業水利施設の効率的な保全管理の推進

方向性(3) マーケットに対応した複合型生産構造の確立

①ほ場整備の進展と合わせた大規模園芸拠点を中心とする更なる生産拡大

- ・ 早期に経営安定できる仕組みづくり
- ・ 中山間地域等での園芸拠点の整備 など

②全国に名を馳せる園芸産地づくり

- ・ 単収、品質の向上
- ・ 全国トップクラスの園芸品目の拡大 など

③災害に強く生産性の高い果樹産地づくり

- ・ 耐雪型樹形の導入などによる雪害に強い産地づくり など

④大規模畜産団地等による生産基盤の強化

- ・ 大規模畜産団地の更なる推進 など

⑤秋田牛や比内地鶏などのブランド力の強化

⑥安全・安心な畜産物の生産に向けた防疫体制の強化

方向性(4) 需要に応じた米生産と水田のフル活用

①多様なニーズに対応した戦略的な米生産の推進

- ・ 事前契約(播種前契約・複数年契約)の拡大 など

②「サキホコレ」のブランド化に向けた生産・販売対策の推進

- ・ 高品質米の供給に向けた生産体制
- ・ ブランド力を高める流通・販売対策、戦略的な情報発信 など

③水田フル活用による収益性の高い水田農業の展開

- ・ 収益性の高い作物への作付転換 など

方向性(5) 国内外へ展開する流通・販売体制の強化

①国内外へ通用する6次化商品の開発

- ・ 異業種連携による加工品の開発・製造 など

②多様化するニーズの獲得に向けた県産農産物のブランド化の推進

- ・ 加工メーカー等のニーズに対応した販路開拓 など

③海外需要に対応した輸出産地づくりと流通体制の構築

- ・ ターゲット国の需要や輸出規制への対応 など

目指す姿

➤ 若者の就業先として魅力的な経営力の高い農業法人等が地域を牽引

➤ 先駆的な女性起業のトップランナーが活躍

➤ スマート農業の進展により、人口減少を契機に労働生産性が向上

➤ 園芸や畜産の大規模団地を中心に、収益性の高い複合型産地を形成

➤ 「サキホコレ」を筆頭に、秋田米のシェアを拡大

➤ 国内外のマーケットに県産農産物や加工品を展開し、外貨を獲得

新元氣創造プラン 戦略2「新時代にサキホコレ！攻めの農林水産戦略(仮称)」の推進方向 ②林業・木材産業

本県農林水産業を取り巻く情勢

① 世界的な食料不安の顕在化

- ・ 世界人口の増加に伴う食料需要の増大
- ・ 異常気象による災害の頻発、病害虫・疾病の発生
- ・ コロナ禍により食料安全保障の再認識

② 脱炭素化・環境負荷軽減に向かう世界的な流れ

- 国の「みどりの食料システム戦略」(R3年5月)の取組方向
 - ・ 有機農業の拡大(2018年:2.4万ha → 2050年:100万ha)
 - ・ 資材やエネルギー調達における脱炭素化
 - ・ 森林のCO2吸収の最大化(2050年:苗木の9割以上にエリートツリー等を活用)

③ 林業従事者数・労働力不足の深刻化(すう勢)

- ・ 10年後には2割減少→ 素材生産量を2割増加させる必要

④ 人口減少の根本課題である“賃金アップ”

- ・ 林業分野においては収益力の向上 = 「コスト縮減と生産性の向上」

取組の視点

視点① 新たなマーケットの開拓

- 住宅分野での外材・他県産材から県産材への置き換え
- 非住宅分野における県産材の利用拡大(中高層建築物や畜舎)
- 海外への販路開拓(米国の住宅用エクステリア向け需要など)
- 様々なニーズに対応できる木材加工施設の整備

視点② カーボンニュートラルに貢献する山の若返り(再造林の拡大)

- 低コスト・省力化技術の導入促進(実践フィールドにおける技術展示)
- コンテナ苗の生産拡大と初期成育に優れた品種の開発
- オール秋田での再造林運動の展開

視点③ 持続できる資源循環体制の確立

- 林内路網整備や高性能林業機械導入による原木供給力の強化
- 木材クラウドなどを活用した原木の流通システムの構築
- 林業大学校などでの人材育成と無料職業紹介所での就業斡旋
- 森林情報のデジタル化と森林経営管理制度の円滑な運用(航空レーザ計測)

II 林業分野の方向性と主な取組

方向性(1) 次代を担う人材の確保・育成

①秋田林業大学校を核とした即戦力となる人材の育成

- ・ 高性能林業機械やICT等の活用による「新しい林業」に対応できる人材の育成
- ・ 低コスト造林技術など幅広い知識や技術の習得 など

②移住を含めた多様な新規就業者の確保・育成

- ・ 無料職業紹介所等を通じた求職者へのトータルサポート
- ・ 移住を含めた多様なルートからの就業
- ・ 新規就業及び定着に向けた労働環境の整備 など

方向性(2) 再造林の拡大による森林の若返り

①林業経営体への経営管理の集積

- ・ 伐採から再造林・保育までの一貫した管理
- ・ 低コスト造林技術の導入と、それを支える人材の育成 など

②低コスト造林技術の普及と種苗供給体制の強化

- ・ 低コスト造林技術の普及定着
- ・ ドローンの活用などスマート林業の推進 など

方向性(3) 木材の生産・流通体制の強化と利用拡大

①原木供給力の強化

- ・ 路網整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システム
- ・ 原木需要の拡大に対応した生産流通システム など

②未利用資源の活用促進

- ・ 木質バイオマス利用施設等の導入 など

③「あきた材」の国内外への販路拡大の推進

- ・ 外材や他県産材からの転換の促進
- ・ 製材品の輸出拡大 など

④非住宅分野など県産材の新たな用途の拡大

- ・ 非住宅建築や土木分野での一般流通材の活用
- ・ 多様な建築物に対応した工法等の開発や人材育成 など

⑤木材加工企業の生産性の向上

- ・ 中小製材工場の生産性強化
- ・ 品質性能の確かな木材製品の供給 など

方向性(4) 森林の多面的機能の発揮

①多様な主体による健全な森林づくりの推進

- ・ 森林経営管理制度等に基づく森林整備の支援 など

②森林の病害虫や獣害対策の推進

- ・ ナラ枯れなど森林病害虫防除の取組推進
- ・ 里山整備を通じた野生動物の出没抑制 など

③保安林等の整備の推進

- ・ 治山ダム工や土留工の整備
- ・ 地すべり被害の防止対策 など

目指す姿

- 将来を担う若い従事者が増加し、林業の成長産業化により山村が活性化
- 「伐って・使って・植える」循環利用を確立し、カーボンニュートラルの実現に貢献
- 競争力の強化と販路拡大により、木材総合加工産地として更に発展

本県農林水産業を取り巻く情勢

① 世界的な食料不安の顕在化

- ・世界人口の増加に伴う食料需要の増大
- ・異常気象による災害の頻発、病害虫・疾病の発生
- ・コロナ禍により食料安全保障の再認識

② 脱炭素化・環境負荷軽減に向かう世界的な流れ

○ 国の「みどりの食料システム戦略」(R3年5月)の取組方向

- ・有機農業の拡大 (2018年:2.4万ha → 2050年:100万ha)
- ・資材やエネルギー調達における脱炭素化
- ・森林のCO2吸収の最大化 (2050年:苗木の9割以上にエリートツリー等を活用)

③ 就業人口・労働力不足の深刻化(すう勢)

- ・漁業就業者が10年後には半減の可能性 → 若年層を中心とした新規就業者の確保・育成
- ・中山間地域は平地の1.5倍のペースで人口減が進み、地域の活力が低下

④ 人口減少の根本課題である“賃金アップ”

- ・漁業では収益力の向上 = 「漁業生産の安定と操業の効率化」
- ・中山間地域では、特色ある農業経営と地域資源を活用した多様な農村ビジネスの推進

取組の視点

漁業分野

視点① 水産資源を支えるつくり育てる漁業の推進

- アワビ・マダイ・ヒラメは自主放流、キジハタ等は技術開発
- ハタハタ資源の解析と資源の維持・増大に向けた漁具の改良

視点② 資源変動に対応した漁業所得の安定化

- ブリ・ギバサ養殖の実用化
- 漁師直売の普及
- 漁港における蓄養殖の推進

視点③ 新規就業者の確保・育成

- あきた漁業スクールを通じた研修の充実強化

農山漁村分野

視点① 人を減らさないための新しい兼業スタイルの普及

- 半農半Xの提案(リモートワーク+副業的農業)
- グリーン・ツーリズムの推進(農家レストラン、農家民宿)

視点② 防災・減災対策等の強化

- ため池特措法に基づく防災・減災対策
- 山地災害の防止対策
- 田んぼダムの取組拡大
- 荒廃農地対策(条件不利農地の集積促進、遊休農地の再生利用)

III 漁業分野の方向性と主な取組

方向性(1) 水産業を担う漁業者の確保・育成

①次代を担う新規就業者の確保・育成

- ・漁業就業の啓発活動や体験型研修の実施 など

②地域のリーダーとなる中核的漁業者の育成

- ・収益性向上など漁業者の経営力強化 など

方向性(2) 水産資源を支えるつくり育てる漁業の推進

①新技術を活用した栽培漁業の推進

- ・トラフグの生産拡大の取組 など

②漁業者が行う自主的な資源管理の促進

③地域の特色ある内水面漁業の振興

- ・内水面漁協等による漁場等の保全 など

方向性(3) スマート漁業や蓄養殖による収益性の向上

①ICTを活用した漁業の効率化

- ・漁業のICT化やオンライン販売の体制整備 など

②高品質化・高付加価値化による水産物のブランド化

- ・水産物コーディネーターによるマッチングサポート など

③蓄養殖の推進による安定生産体制の確立

- ・漁港を活用した蓄養殖の試験 など

方向性(4) 水産物の安定供給を支える漁港や漁場の整備

①漁港施設の機能強化と長寿命化の推進

②海域の生産力向上に向けた漁場整備

- ・漁港での蓄養殖に向けた施設の改良・更新 など

目指す姿

漁業分野

- 稼げる漁業経営を確立し、若者を中心に就業者数が増加
- 水産物の高品質化や蓄養殖の実用化により収益性が向上し、漁業所得が安定

農山漁村分野

- キラリと光る農作物など、地域資源を生かした持続可能な農業経営が展開
- 農泊に代表される多様な農村ビジネスが展開され農村関係人口が拡大
- 地域住民と企業等が共同で行う保全活動により里地里山が保全

IV 農山漁村分野の方向性と主な取組

方向性(1) 中山間地域における特色ある農業の振興

①キラリと光る産地づくりの推進

- ・地域ならではの農産物の産地化や加工品の開発 など

②中山間地域における産地間連携の促進

- ・複数の地域が連携した産地づくりの推進 など

方向性(2) 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの推進

①様々な地域資源を活用した「農村発イノベーション」の推進

- ・地域資源を組み合わせた新たな農村ビジネス など

②農泊等の推進による農村関係人口の拡大

- ・ワーケーションなど新たな働き方の推進 など

方向性(3) 新たな兼業スタイルによる定住の促進

①半農半Xの推進などによる地域を支える人材の確保・育成

- ・半農半Xなど新たな兼業スタイルの拡大 など

②【再掲】多様なニーズに応える移住就農の支援

方向性(4) 多面的機能を有する里地里山の保全

①里地里山の保全と活用

- ・遊休農地の発生防止と再生利用 など

②共同活動による多面的機能の発揮

- ・中山間地域における農業生産の支援 など

③【再掲】多様な主体による健全な森林づくりの推進